

【表11】 その場逆突きと移動突きの衝撃力

	格闘技の種類	最大値 f_M (kgw)	持続時間 T_1 (ms)	全力積 S_1 (kgw.s)
逆突き	空手	439	20.5	3.45
	日本拳法	550*	21.0	3.50
	中国拳法	474	21.5	3.46
	キック	534	17.1	3.53
移動突き	空手	460	22.4	3.97
	日本拳法	506	18.5	3.43
	中国拳法	422	20.5	3.41
	キック	456	18.1	2.98

*推定値(振り切れる)

その場逆突きで最大値の最高値を出したのは、意外なことに体重が六五kgと小柄な日本拳法の選手だった。それに次いでキック、中国拳法の順となり、体重が九五kgと最も大きい空手の選手の値が最も低かった。ただし、全力積 S_1 は四人ともほぼ同じ値である。日本拳法は重い防具を付けて打ち合う試合形式なので、軽い突きは有効打とみなされない。そのため自然に強い突きを出すようになったのであろう。

キック・ボクシングは防具なしで打ち合うので、当然強い突きが有利である。特にこの選手は右ストレート(右の逆突き)が得意で、一ラウンド八秒で相手を倒し、全日本学生キック連盟の試合における最短KO記録保持者となった。

中国拳法は「発勁」という特殊な力の出し方を秘伝としている。四人の中で体重が最も軽く、しかも上半身のきゃしゃなこの選手がこれだけの数値を示したことは、この秘伝が力学の理にかなったものであることを示している。

空手にはさまざまな試合形式があるが、この選手は突き蹴りを実際に当てることのない「寸止めルール」の試合を行なっている。建前はともかく、実際の衝撃力の強さは試合の勝敗に関係がない。流派の理論はどうであれ、試合に必要な衝撃力が(特に体重の割りに)弱くても不思議ではない。

次は移動突きである。空手と中国拳法の選手は左前の構えから右足を滑らすように前へ出しながら右拳で突いた。日本拳法とキックは少林寺拳法と同じく、左前のまま前進して突いた。前二

